

2020年7月
函館海上保安部

令和2年「海の日」に係る海事関係功労者等表彰
～北斗救難所に対する函館海上保安部長から感謝状～

函館海上保安部（函館市海岸町）では、令和2年（2020年）「海の日」における海事関係功労者に対する表彰状の授与・伝達を、7月27日（月）から29日（水）の3日にわたり行い、うち28日（火）は、上磯郡漁業協同組合はまなす支所（北斗市茂辺地）において、越野学さんに対し、函館海上保安部長から感謝状をお渡ししました。

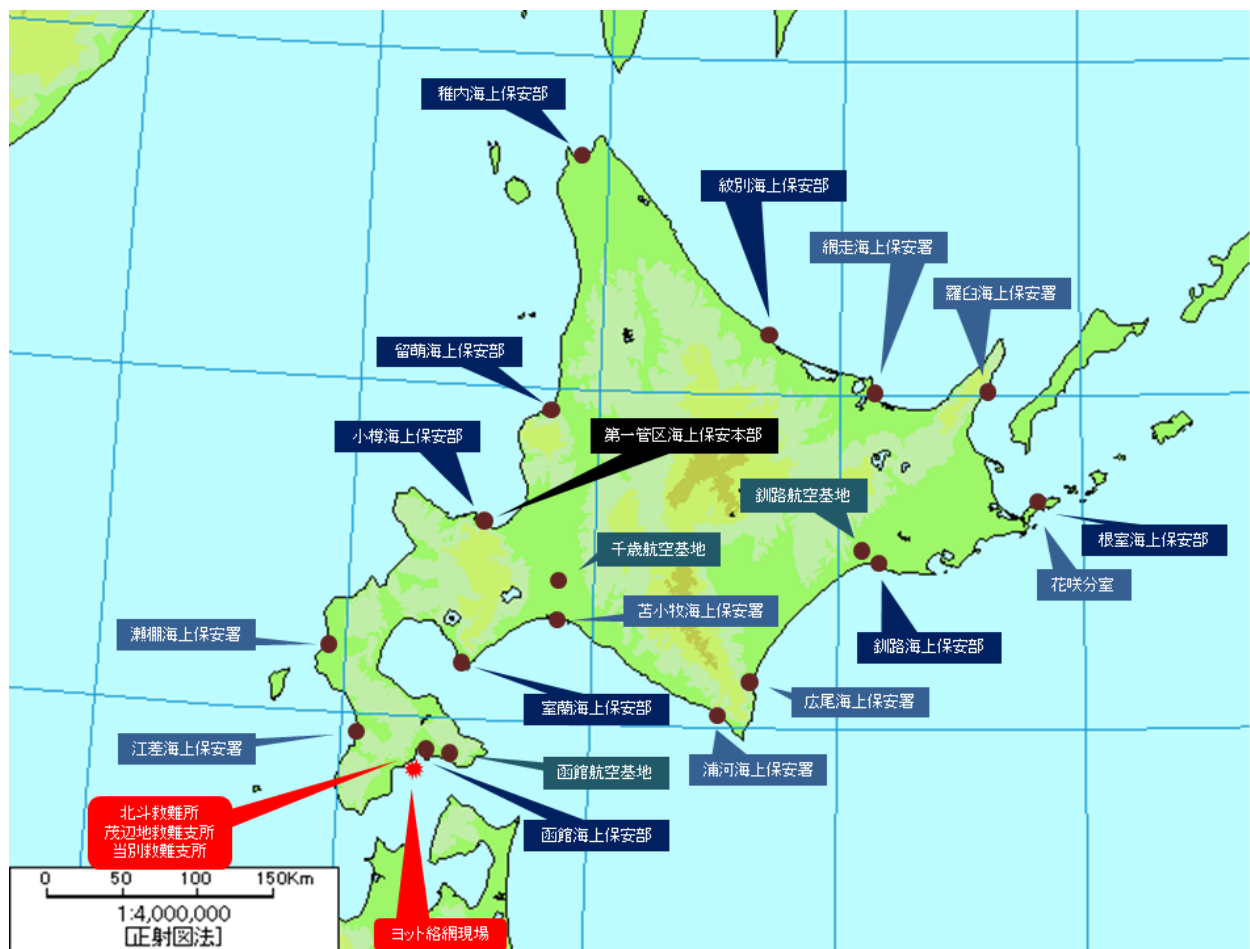
越野さんは、北斗救難所茂辺地支所に所属し、救助員として多年にわたり海難救助活動に精励され、海上における人命財産の救助に多大な貢献をされました。この日、上磯郡漁業協同組合はまなす支所長であり、北斗救難所茂辺地支所事務局の石山千代志さんにも同席していただきました。





北斗救難所は、上磯支所、茂辺地支所、当別支所から成り、所員あわせて29名が在籍されています。うち、越野さんは茂辺地支所に所属、今年で20年になり、現在救助長を務められています。

救難所、支所の最近の活動としては、1年前の令和元年（2019年）7月14日、木古内湾でヨットが絡網し航行不能となり、救助願うとの連絡を受け、現場に駆けつけたのがこの救難所である上磯救難所（当時）所属の救助船「茂丸（しげまる）」（総トン数6.2トン）です。



第一報が入ったのが日没近づく19時前で、118番通報を受けた第一管区海上保安本部から函館海上保安部経由で上磯救難所（当時）に救助要請したものです。茂丸は直ちに現場に急行、救助を求めるヨットを養殖施設から引き出し、その後到着した函館海上保安部巡視艇ゆきぐも（PC117、総トン数100トン、長さ32m）に引き継ぎました。

この「茂丸」に乗り込んでいたのは、高森茂貴さん、井上猛さん、里村正人さんの3名で、現在それぞれ北斗救難所副所長（当別所属）、救助長、救助員をされています。

このような日本各地の救難所・支所による救難活動の支援を行っているのが公益社団法人・日本水難救済会（東京都千代田区麹町）です。沿岸海域で遭難した人や船の救助に馳せ参じ

る民間ボランティア救助員を支えるための団体であり、令和から平成、昭和、大正、明治へと遡ること1889年（明治22年）にボランティア救助員による救難活動を支援するために設立されました。以来、沿岸海域における人命・財産の救助において着実に実績をあげ、2018年（平成30年）12月末現在で、救助人員は19万人、救助船舶は4万隻を越えており、2019年（令和元年）には設立130年を迎えています。

明治時代以来続く海上での救難活動の拠点となっているのが救難所・支所であり、日本全国津々浦々に設置されています。現在、その数は全国で1,300か所を越え、救難所としては786か所、救難所支所は538か所となり、およそ5万1千人のボランティア救助員がこれらに所属しています。北海道には107か所の救難所があり、このうち函館海上保安部管内には、北斗救難所をはじめ計17の救難所、26の支所があり、1,197名の方が所属されています。

昨年のヨット絡網事故では、支所の救助船舶が先着し、養殖施設からヨットを引き出し、その後巡視艇ゆきぐもが引き継ぎ、函館港向けえい航開始するといったように、前浜を知り尽くした救難所、支所の救助船舶と海上保安庁の間でうまく連携がとられた事例といえます。

7月の「海の日」を機会に、「北斗救難所」茂辺地支所員として海を守っていただいている越野さんにあらためて感謝申し上げるとともに、北斗救難所、上磯支所、茂辺地支所、当別支所との更なる連携を祈念いたします。

公益社団法人「日本水難救済会」の詳細については、ホームページ <http://www.mrj.or.jp/> でご覧いただけます。